

国外実態調査報告書

テーマ : ASEAN研究
—アジア消費市場調査とシーナカリンウィーロート大学との交流会—
ゼミ名 : 木村 有里ゼミ
調査日 : 2019年9月16日(月)~9月19日(木)
調査先 : タイ、バンコク
授業科目名 : 課題演習 I
参加学生数 : 9名(2年生)

調査の趣旨(目的)

課題演習「ASEAN研究」では、日系企業のASEAN市場開拓について研究していません。前期授業では、ASEAN10カ国の市場動向について教科書を通じて学びました。今回の訪問では、①多様なアジアの消費市場を体感、理解すること②シーナカリンウィーロート大学との交流、③タイ観光局訪問の3つを目的としました。

調査結果

- ①バンコク最大の生鮮市場であり、かつ、都市労働者のスラム(クロントイ地区)と隣接している Khlong Toei Market (クロントイ市場)、アジアのベストマーケットにも選出されている Or Tor Kor Market (オートーコー市場)と「OTOP(一村一品)」プロジェクト事務所訪問、Ratchada Night Market(ラーチャーダー夜市)さらには、中華街(ヤワラート)、問屋街(サンペンレーン)、インド人布屋街(パフラット)などを歩き回り、所得、民族、居住区などにより、価格や販売方法の異なる多様なアジア消費市場を体感、理解しました。
- ②シーナカリンウィーロート大学人文学部を訪問しました。中央大学からはASEAN研究の成果を報告し、タイ側からは『3.11 福島のご記憶』翻訳出版プロジェクトに参加した学生たちから、出版までの経緯を報告してもらいました。その後、キャンパスを出て「今のタイの大学生が普段していること、行くところ」を案内してもらいました。
- ③タイ政府観光局にて日タイ交流のもたらす市場拡大、経済効果についてタイ側の分析をうかがいました。タイの今後のビザ発給方針や、日本とタイのインバウンド振興策の違いについて解説がありました。

